

基礎経営概論

授業の目的・概要

本授業は、動物関連ビジネスにおいて必要となる基礎的な経営知識の習得を目的とする。前半では経営理念や戦略の基本概念、環境分析（マクロ・ミクロ環境、SWOT 分析）を通じて、企業活動の構造的な理解を深める。また成長戦略や事業ポートフォリオの考え方を学び、企業の持続的発展について理解する。中盤では売上管理に関する基礎として、客数・客単価の構造理解や KPI 設定、データ分析と改善手法を実践的に学習する。後半ではマーケティングの基本概念から STP 分析、4P、顧客価値などを体系的に学び、グループワークを通じて実践的な企画・分析力を養うことで、現場で活用できる経営的思考力を身につける。

科	生命科学科	教員	福田・津田
コース	トリミングゼミ	教員の実務経験	福田：トリマー歴 1 年 津田：ペットショップ歴 6 年
対象年次	1 年・2 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

- ・経営戦略を学習し、企業活動・経営活動の意義・意味を理解することができる。
- ・企業活動の方向性、成長戦略、競争戦略の諸理論の理解を通して、現状を把握し、その状況を打開するための下地を構築することができる。

後期

- ・マーケティングを学習し、それらを実施していくうえでの重要ポイントの網羅と、それぞれのポイントが有機的に連携する重要性を理解することができる。
- ・経営や業務遂行のための実践的な知識・思考を身に付けることができる。

授業計画

- 1回 経営戦略について(目標・授業・評価方法説明)
- 2回 経営戦略(経営理念、企業のこだわり、理念と戦略)
- 3回 経営戦略(経営理念、理念と業務、理念と優先順位)
- 4回 経営戦略(環境分析、マクロ環境とミクロ環境、日本特有の環境)
- 5回 経営戦略(環境分析、SWOT 分析)
- 6回 成長戦略(成長ベクトル、企業成長の過程)
- 7回 成長戦略(多角化戦略、さらなる成長のために)
- 8回 成長戦略(事業ポートフォリオ、事業と資金の循環)
- 9回 成長戦略(事業ポートフォリオ、経験の成果と製品の循環)
- 10回 成長戦略(内部成長方式と外部成長方式、自己成長、提携)
- 11回 売上管理(売上の構造理解、売上＝客数×客単価の考え方)
- 12回 売上管理(客数・客単価の分析方法、改善の考え方)
- 13回 売上管理(簡単な数値計算と目標設定、KPI の基礎)
- 14回 売上管理(演習：売上データを用いた分析と改善案の検討)
- 15回 前期の振り返り
- 16回 マーケティングについて(基本概念と目的)
- 17回 マーケティングと販売の違い(役割の違いと関係性)
- 18回 一般的なマーケティングの流れ(市場調査～販売までのプロセス)
- 19回 マーケティング(STP 分析)
- 20回 マーケティング(水平思考)
- 21回 グループディスカッション(成功している店舗の特徴検討まとめ)
- 22回 グループディスカッション(売上向上のための施策検討まとめ)
- 23回 マーケティング(顧客価値について)
- 24回 マーケティング(4Pについて)
- 25回 マーケティング(バリュープロポジションについて)
- 26回 マーケティング(普及率 16%について)
- 27回 グループディスカッション(ターゲット設定と商品企画の検討)
- 28回 グループディスカッション(4P 用いた販売戦略の検討)
- 29回 グループディスカッション(グループ内での意見整理と全体共有)
- 30回 1年の振り返り

授業の方法

座学を中心に基礎知識を学び、理解を深めるためにグループディスカッションを取り入れる。ディスカッションでは具体的な事例をもとに意見交換を行い、実践的な思考力の向上を図る。

教材

なし

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、授業で扱う経営用語や事例について教科書や配布資料を用いて概要を確認し、自身のアルバイト経験や身近な店舗運営と関連づけて考察する。事後学習では、授業内容をノートや資料で復習し、分析手法やマーケティング理論を用いて身近な企業・店舗を観察し、理解の定着と実践的思考力の向上を図る。

実務経験と授業科目の関係

ペットショップスタッフやトリマーとしての実務経験を基に、ペット業界における店舗運営やサービス提供の仕組みについて指導を行う。ペットビジネスの現状や業界の特徴、経営の基本的な考え方について学び、実際の現場での経験や事例を交えながら、経営やビジネスの基礎知識を理解できるよう指導する。

接客実践

授業の目的・概要

本授業は、動物関連業界における接客・販売の基礎的な実践力を身につけることを目的とする。第一印象や表情、カーミングシグナルの理解など人間心理の基礎を学び、顧客の行動や心理を踏まえた適切な対応力を養う。また、売場の見方やレイアウト、声かけ、電話対応などの実務スキルに加え、POP 作成やイベント企画を通して商品やサービスの魅力を効果的に伝える方法を習得する。さらに、クレーム対応や販売における倫理的視点も学び、現場で即戦力となる接客力を総合的に育成する。

科	生命科学科	教員	岡田 有沙
コース	トリミングゼミ	教員の実務経験	動物関連産業 20 年
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

- ・人と接する中で意識すべきことを知り、接客に役立てることができる。
- ・売り場を知り、効果的な販売を知ることができる。
- ・POP について理解し、活用できるようになる。
- ・イベント企画の流れを理解することができる。

授業計画

- 第 1 回 自己紹介
- 第 2 回 授業の説明・導入
- 第 3 回 接客とは（人と接すること）
- 第 4 回 第一印象
- 第 5 回 人の表情
- 第 6 回 人のカーミングシグナルから読み取る相手の気持ち
- 第 7 回 しよびい（売り場を見る）お客様の目線

- 第 8 回 グループワーク（しょっぴいを見て）
- 第 9 回 色が与える印象
- 第 10 回 人の脳と接客の関係
- 第 11 回 売場作成について（配置・並べ方）
- 第 12 回 販売のコツ・声かけ・呼び込み・ビラ配り
- 第 13 回 店内での受付
- 第 14 回 電話での予約受付・電話での案内
- 第 15 回 自宅課題：ノート提出（まとめ作業）
- 第 16 回 前期期末試験（返却・解説）
- 第 17 回 しょっぴい（売り場を見る）店員の目線
- 第 18 回 年間行事・効果的なセールの開催法
- 第 19 回 商品の魅力
- 第 19 回 POP とは
- 第 20 回 POP（文字練習）①
- 第 21 回 POP（文字練習）②
- 第 22 回 POP（作成のコツ）
- 第 23 回 POP 作成①
- 第 24 回 POP 作成②
- 第 25 回 フォトブースの活用
- 第 26 回 効果的なイベント開催法①
- 第 27 回 効果的なイベント開催法②
- 第 28 回 悪徳な販売・クレーム対応
- 第 29 回 1 年間の総まとめ①
- 第 30 回 1 年間の総まとめ②

演習

教材

必要に応じてプリントを配布

評価の方法

期末試験 60%、課題への取り組み 20%、平常点 20%（出席率、授業態度等）で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業内で出される課題をノートで提出

実務経験と授業科目の関係

接客業における実務経験を踏まえ、実際の現場で必要とされる接客マナーやコミュニケーション能力を重視した指導を行う。演習を通じて実践力の向上を図る。

インターンシップⅡ

授業の目的・概要

本授業は、動物業界への就職を目指す学生が、インターンシップを通じて実際の職場環境を体験し、専門知識・技術の実践力を養うことを目的とする。動物病院、ペットショップ、トリミングサロン、ペットホテル、動物福祉施設などの現場において、動物の飼養管理や健康観察、接客対応、衛生管理、チームでの業務遂行などを体験し、職業人として求められる責任感やコミュニケーション能力を身に付ける。また、現場での体験を通じて自己の適性や課題を把握し、将来の進路選択や就職活動に役立てることを目指す。事前指導では職業倫理や安全管理について学び、実習後には振り返りと成果報告を行うことで、学習成果の定着とキャリア形成につなげる。

科	生命科学科	教員	林
コース	全ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・動物業界の現場における業務内容や役割を理解し、基本的な業務を適切に実践できる。
- ・動物の飼養管理、健康観察、衛生管理などに関する実践的な知識・技術を身に付ける。
- ・職業人として必要なビジネスマナー、コミュニケーション能力、協調性を身に付け、円滑に行動できる。
- ・インターンシップで得た経験を振り返り、自身の適性や課題を把握するとともに、将来の進路選択や就職活動に活かすことができる。

授業計画

- 第 1 回 インターンシップ概要説明・目的理解・受入先の紹介
- 第 2 回 ビジネスマナー・職業倫理・安全管理・注意事項説明
- 第 3 回 インターンシップ① 施設理解とオリエンテーション
- 第 4 回 インターンシップ② 施設見学と業務内容の把握
- 第 5 回 インターンシップ③ 接客・来客対応の補助
- 第 6 回 インターンシップ④ 電話対応・受付業務の補助
- 第 7 回 インターンシップ⑤ 施設内清掃・衛生管理業務
- 第 8 回 インターンシップ⑥ 飼育環境の整備と安全確認
- 第 9 回 インターンシップ⑦ 動物の健康観察と記録
- 第 10 回 インターンシップ⑧ 給餌・給水業務の補助
- 第 11 回 インターンシップ⑨ 動物の保定補助
- 第 12 回 インターンシップ⑩ 日常ケア業務の補助
- 第 13 回 インターンシップ⑪ 施設備品・消耗品管理

第 14 回	インターンシップ⑫	顧客対応・コミュニケーション実践
第 15 回	インターンシップ⑬	チーム業務への参加
第 16 回	インターンシップ⑭	担当業務の実践①
第 17 回	インターンシップ⑮	担当業務の実践②
第 18 回	インターンシップ⑯	担当業務の実践③
第 19 回	インターンシップ⑰	担当業務の実践④
第 20 回	インターンシップ⑱	担当業務の実践⑤
第 21 回	インターンシップ⑲	担当業務の実践⑥
第 22 回	インターンシップ⑳	担当業務の実践⑦
第 23 回	インターンシップ㉑	担当業務の実践⑧
第 24 回	インターンシップ㉒	担当業務の実践⑨
第 25 回	インターンシップ㉓	担当業務の実践⑩
第 26 回	インターンシップ㉔	担当業務の実践⑪
第 27 回	インターンシップ㉕	担当業務の実践⑫
第 28 回	インターンシップ㉖	担当業務の実践⑬
第 29 回	インターンシップ㉗	担当業務の実践⑭
第 30 回	インターンシップ㉘	担当業務の実践⑮
第 31 回	インターンシップ㉙	担当業務の実践⑯
第 32 回	インターンシップ㉚	担当業務の実践⑰
第 33 回	インターンシップ㉛	担当業務の実践⑱
第 34 回	インターンシップ㉜	総合実践・就業力向上
第 35 回	インターンシップ成果報告会・振り返り・自己評価と今後の課題整理	

授業の方法

インターンによる実践。

教材

必要な資料を概要説明時に配布する。

評価の方法

インターンへの参加意欲 20%、企業の評価 50%、レポート提出 30%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、受入先の業務内容や業界動向について調べるとともに、ビジネスマナーや安全管理、動物の飼育管理に関する基礎知識を復習する。事後学習では、実習日誌や記録を整理し、実習で得た知識・技術や課題を振り返ることで理解を深め、今後の学習や就職活動に活かす。

実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、インターンシップにおける職業意識の形成や社会人基礎力の向上を支援するとともに、実習経験を将来の進路選択や就職活動につなげるための指導を行う。

特別活動Ⅱ

授業の目的・概要

学校行事への参加を通じて、専門分野への理解を深めるとともに、協調性や主体性、社会性を養う。各種行事における事前準備、参加、振り返りを通じて学びを深化させ、将来の職業人として必要な資質の向上を目指す。

科	生命科学科	教員	林
コース	全ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・学校行事の目的や意義を理解し、主体的に参加できる。
- ・行事を通じて専門分野への理解を深め、学びを実践に結び付けることができる。
- ・他者と協力しながら活動に取り組み、協調性や社会性を身に付ける。
- ・行事で得た経験を振り返り、自己の成長や課題を今後の学習・進路選択に活かすことができる。

授業計画

- 第 1 回 特別活動の目的と年間計画の理解
- 第 2 回 学校行事に参加する意義と学習目標の設定
- 第 3 回 研修旅行事前学習①（研修目的の理解）
- 第 4 回 研修旅行事前学習②（訪問先・業界研究）
- 第 5 回 研修旅行事前学習③（グループ活動計画の作成）
- 第 6 回 研修旅行事前学習④（安全管理・マナーの確認）
- 第 7 回 研修旅行事前学習⑤（事前調査の共有）
- 第 8 回 研修旅行への参加
- 第 9 回 研修旅行振り返り①（体験内容の整理）
- 第 10 回 研修旅行振り返り②（学習成果の共有）
- 第 11 回 校外実習事前学習①（実習目的の理解）
- 第 12 回 校外実習事前学習②（実習先研究）
- 第 13 回 校外実習事前学習③（安全管理とマナー）
- 第 14 回 校外実習事前学習④（学習課題の設定）
- 第 15 回 校外実習への参加
- 第 16 回 校外実習振り返り①（活動内容の整理）
- 第 17 回 校外実習振り返り②（成果と課題の分析）
- 第 18 回 KAP エキスポ事前学習①（イベントの目的と業界動向の理解）

- 第 19 回 KAP エキスポ事前学習②（企業研究・出展内容の確認）
- 第 20 回 KAP エキスポ事前学習③（見学計画の作成）
- 第 21 回 KAP エキスポ事前学習④（質問事項の作成）
- 第 22 回 KAP エキスポへの参加
- 第 23 回 KAP エキスポ振り返り①（見学内容の整理）
- 第 24 回 KAP エキスポ振り返り②（学習成果の共有）
- 第 25 回 卒業研究発表会事前学習①（研究テーマの理解）
- 第 26 回 卒業研究発表会事前学習②（発表の着眼点と評価方法）
- 第 27 回 卒業研究発表会事前学習③（専門知識の整理）
- 第 28 回 卒業研究発表会への参加
- 第 29 回 卒業研究発表会振り返り・学習成果の共有
- 第 30 回 年間活動の総括（自己評価・今後の目標設定）

授業の方法

演習形式で進めていき、グループワークや意見交換を積極的に取り入れていく。

教材

特にないが、必要に応じて資料を配布していく。

評価の方法

授業への参画 30%、成果発表 50%、レポート提出 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、各行事の目的や内容、関連する業界・専門知識について調査し、学習課題を明確にする。事後学習では、活動記録やレポートを作成し、得られた知識や気づきを整理するとともに、自身の成長や課題を振り返り、今後の学習や進路形成に活かす。

実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、各種学校行事への参加を通じた主体的な学びや職業意識の形成を支援する。また、活動前後の目標設定や振り返りを通じて、行事で得た経験を自己成長やキャリア形成につなげられるよう指導を行う。

動物関連法規学Ⅱ

(授業概要)

本授業は、動物業界を目指す学生を対象に、動物の法的地位や飼い主の責任、各種契約関係、生活環境における規制について体系的に学ぶことを目的とする。民法上の動物の位置づけや不法行為責任、寄託・贈与契約などの基礎に加え、マンションでの飼育ルール、保護動物の取扱い、身体障害者補助犬法、獣医師法・愛玩動物看護師法、鳥獣保護法などの関連法規を扱い、事例を通して実務的理解を深める。動物を巡る社会的・法的課題を多角的に捉え、適切な対応力を養う。

	生命科学科		井田 竜馬
コース	トリミングゼミ	の	○
	2年		1単位

前期

動物の法的立場や飼い主の責任について理解することができる。

後期

マンションにおけるペット問題、動物の譲渡等においてトラブルに巻き込まれないために事例などを元に理解することができる。

- 1回 動物の法的立場 (1) 法律における動物の位置づけ
- 2回 動物の法的立場 (2) 動物に財産を残す場合 その1
- 3回 動物の法的立場 (3) 動物に財産を残す場合 その2
- 3回 動物の法的立場 (4) 保護動物を飼育する場合 その1
- 4回 動物の法的立場 (5) 保護動物を飼育する場合 その2
- 5回 飼い主の法的責任 (1) 民法第718条について その1
- 6回 飼い主の法的責任 (2) 民法第718条について その2
- 7回 飼い主の法的責任 (3) 事例を元に考える その1
- 8回 飼い主の法的責任 (4) 事例を元に考える その2
- 9回 飼い主の法的責任 (5) 事例を元に考える その3
- 10回 マンションにおけるペット問題 (1) 管理規約とは
- 11回 マンションにおけるペット問題 (2) 使用細則とは
- 12回 マンションにおけるペット問題 (3) ペット可のマンションについて

- 13回 マンションにおけるペット問題（4）ペット不可のマンションについて
- 14回 動物を預かる際に気を付けるべき事柄（1）寄託契約その1
- 15回 動物を預かる際に気を付けるべき事柄（2）寄託契約その2
- 16回 動物を預かる際に気を付けるべき事柄（3）寄託契約に関する実例
- 17回 動物を譲り渡す際に気を付ける事柄（1）贈与契約その1
- 18回 動物を譲り渡す際に気を付ける事柄（2）贈与契約その2
- 19回 動物を譲り渡す際に気を付ける事柄（3）贈与契約その3
- 20回 身体障害者補助犬法（1）法の概要
- 21回 身体障害者補助犬法（2）身体障害者補助犬の定義
- 22回 身体障害者補助犬法（3）アクセスの保証その1
- 23回 身体障害者補助犬法（4）アクセスの保証その2
- 24回 獣医師法と愛玩動物看護師法（1）法の概要
- 25回 獣医師法と愛玩動物看護師法（2）診療行為とは何か
- 26回 獣医師法と愛玩動物看護師法（3）トリマーやトレーナーが行える行為など
- 27回 鳥獣保護法（1）身近な動物の規制について その1
- 28回 鳥獣保護法（2）身近な動物の規制について その2
- 29回 鳥獣保護法（2）身近な動物の規制について その3
- 30回 2年総復習

の

講義

テキスト、自作のプリント

の

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

での

1回1回の授業ノートに関してポイントを各自纏めなおし、随時チェックする。

との

長らくペット分野の許認可を含む法律事務に関わる業務を行っており、ペットビジネスのサポートを行っている。それらの経験を下地に、プロとして動物に関わっていくために必要な知識などを解説していく。

老齢犬・卒研演習

授業の目的・概要

（老齢犬）将来就く職業を意識したうえで、老犬の健康管理、ケア、介護、また老犬を持つオーナー様へのケアなど実際に仕事についたときに実践、アドバイスができる知識を学ぶ。

（卒研演習）卒業研究発表（カットショー）の完成度を高めるために計画立案・実施・整理・資料作成などに取り組む。グループワークを交えながら学生同士で協力し、コミュニケーション能力と協調性を兼ね備えた人材を目指す

科	生命科学科	教員	神坂/稲岡
コース	トリミングゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位数	2 単位

目標

（老齢犬）前期では老齢犬の基礎健康管理を学び、どのような変化が訪れ、どのように対応していくのかを学び、老犬がどのようなものをイメージできるようになる。

後期には老齢犬の介護の方法、家庭でのケア方法、オーナー様のケアを学び、具体的に将来どのように活かしていくのかを各自考えられるようになる。

（卒研演習）

- ・卒業研究を進めるにあたり、面談を行いながらグループワークを行い交友関係を築くことができる。
- ・使用するウィッグをとき、デザインを考えデザイン画を完成させることができる。
- ・パワポを完成させ、卒業研究発表会にて発表することができる。

授業計画

- 第1週 授業の説明、「老齢」とは？／カットコンテストの説明
- 第2週 犬の成長と老犬期／グループ決め
- 第3週 高齢化／テーマ決め
- 第4週 老化の要因／デザイン画作成開始
- 第5週 飼い主への情報提供①食餌、健康管理など／パワポ作成、デザイン画作成（枠組み完成）

- 第 6 週 飼い主への情報提供②運動、別離／パワーボ作成、デザイン画作成（色付け）
- 第 7 週 老齢犬の身体的変化①皮膚・被毛／パワーボ作成、デザイン画完成
- 第 8 週 老齢犬の身体的変化②消化器／パワーボ作成、練習用ウィッグ梳き開始
- 第 9 週 老齢犬の身体的変化③歯／パワーボ作成、練習用ウィッグ梳き（3 分の 1 完成）
- 第 10 週 老齢犬の身体的変化④呼吸器／パワーボ作成、練習用ウィッグ梳き（3 分の 2 完成）
- 第 11 週 老齢犬の身体的変化⑤生殖器／パワーボ作成、練習用ウィッグ梳き完成
- 第 12 週 老齢犬の身体的変化⑥泌尿器／パワーボ作成、練習用カット開始
- 第 13 週 老齢犬の身体的変化⑦筋・骨格／パワーボ作成、練習用カット（大体のバランスを決める）
- 第 14 週 老齢犬の身体的変化⑧心血管・血液／パワーボ作成、練習用カット（デザイン作成）
- 第 15 週 老齢犬の身体的変化⑨神経／パワーボ作成、練習用カット（アウトラインを揃える）
- 第 16 週 老齢犬の身体的変化⑩感覚器／パワーボ作成、練習用カット（飾り・色付け）
- 第 17 週 セラピー／パワーボ作成、練習用カット完成
- 第 18 週 前期の振り返り・調べ学習／パワーボ作成、練習用カット仮発表
- 第 19 週 老犬介護とは／パワーボ作成、デザイン画修正
- 第 20 週 生活の工夫①運動、徘徊／パワーボ作成、本番用ウィッグ梳き
- 第 21 週 生活の工夫②生活スペース、食餌／パワーボ作成、本番用ウィッグ梳き完成
- 第 22 週 介護と療法／パワーボ作成、本番用カット開始
- 第 23 週 動物病院、獣医師との関わり／パワーボ作成、本番用カット（3 分の 1 完成）
- 第 24 週 介護のまとめと将来働く際の活かし方／パワーボ作成、本番用カット（3 分の 2 完成）
- 第 25 週 自然医学療法／本番用カット、パワーボ仮発表
- 第 26 週 老齢犬のオーナーケア①ペットを亡くしたら／本番用カット、パワーボ修正
- 第 27 週 老齢犬のオーナーケア②ペットロスとは／本番用カット、パワーボ完成
- 第 28 週 老齢犬のオーナーケア③ペットロスによる感情反応と心理状態／発表本番
- 第 29 週 老齢犬のオーナーケア④ペットロスによる悲しみ／カットコンテスト振り返り
- 第 30 週 後期の振り返り・調べ学習／結果発表

授業の方法

（老齢犬）老犬及びその飼い主の対応に活かすための知識を学ぶ講義

（卒研演習）グループワークやプレゼンテーションを行う。

教材

（老齢犬）特になし（授業で使用する補足プリントについては、必要に応じて授業中に適宜配布していく。）

（卒研演習）ウィッグ本体 1、着せ替え 2（練習用と本番用）

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

（老齢犬）機会があれば老齢犬に関わり、普段の様子を観察し、ノートに記しておく。機会がない場合は、各項目において将来どのように飼い主さんへのアドバイスを行うかを考えて整理しておく。

（卒研演習）日頃から SNS 等で様々なカットを調べておく。

実務経験と授業科目の関係

専門学校にて老犬に関する知識を学び、自身の愛犬、また日常生活において関わる犬の成長や介護に関わりながら、セミナー参加や自己学習を重ね、経験や新しい知識を交えての授業を行う。

トリミングゼミ演習

(授業概要)

本授業は、トリマーとして必要な基礎知識および実践的なグルーミング技術の習得を目的とする。前半ではブードルを中心にマルチーズ、シーザー、シュナウザー等の代表的犬種についてカット理論を学び、モデルグルーミングを通して犬種特性に応じた基本技術を理解する。中盤以降はブラッシング、シャンプー、ドライイング、バリカンワーク、部位別仕上げまでを段階的に実習し、反復練習により技術の定着を図る。さらに、制限時間内での単独トリミングやライセンス試験を通じて実践力と応用力を養い、現場で求められる安全性・効率性・仕上がり精度を備えた専門職としての基礎力を身につける。

	生命科学科		神坂 美紀・山崎 雅代
コース	トリミングゼミ	の	サロントリマー 8 年
	2 年		24 単位

前期

犬種ごとのカットスタイルを理解し、実践できるようになる。

鉋の動かし方を確実に丁寧に行うことができるようになる。

飼い主対応、カットのオーダーの取り方を理解する。

後期

トリミングマスターライセンス取得に向け時間配分・仕上がりを意識しカットが出来るようにする。

(ブードル:ベーシック 90 分・テディベアカット 100 分以内に仕上げ)

一人で接客対応・説明を行えるようになる。

- 1 回 カット講義 (ブードル全般、マルチーズ・シーザー)
- 2 回 カット講義 (ボメラニアン全般、全身バリカン、毛流れ)
- 3 回 カット講義 (A・コッカー、ヨークシャー・テリア)
- 4 回 カット講義 (ウェスティ、ワイアー・フォックス・テリア)
- 5 回 カット講義 (シュナウザー、スコティッシュ・テリア)
- 6 回 モデルグルーミング (ブードルテディ、ラム)
- 7 回 モデルグルーミング (シュナウザー)
- 8 回 モデルグルーミング (ボメラニアン)
- 9 回 モデルグルーミング (ヨークシャー・テリア)

- 10回 トリミング実習(2人で1頭)ブードルブラッシング、もつれ取り
- 11回 トリミング実習(2人で1頭)ブードルブラッシング、もつれ取り復習
- 12回 トリミング実習(2人で1頭)ブードルブラッシング、もつれ取り、シャンプー、ドライイング
- 13回 トリミング実習(2人で1頭)ブードルブラッシング～ドライイングの復習
- 14回 トリミング実習(2人で1頭)ブードルブラッシング～ドライイング、耳掃除、ボディバリカン
- 15回 トリミング実習(2人で1頭)ブードルベーシック～ボディバリカンの復習
- 16回 前期試験、トリミング実習(2人で1頭)ブードルベーシック～ボディバリカン、足周り
- 17回 トリミング実習(2人で1頭)ブードルベーシック～足周りの復習
- 18回 試験返却、試験の振り返り、トリミング実習(2人で1頭)ブードルベーシック～足周り、後肢側面・内側
- 19回 トリミング実習(2人で1頭)ブードルベーシック～後肢側面・内側、後肢前後・お尻
- 20回 トリミング実習(2人で1頭)ブードルベーシック～後肢前後・お尻、前肢側面・内側
- 21回 トリミング実習(2人で1頭)ブードルベーシック～前肢側面・内側、前肢前後・胸
- 22回 トリミング実習(2人で1頭)ブードルベーシック～胸、顔・耳・尾
- 23回 トリミング実習(1人で1頭)ブードルテディベアカット 300分
- 24回 トリミング実習(1人で1頭)ブードルテディベアカット 270分
- 25回 トリミング実習(1人で1頭)ブードルテディベアカット 230分
- 26回 トリミング実習(1人で1頭)ブードルテディベアカット 200分
- 27回 トリミング実習(1人で1頭)ブードルテディベアカット 170分
- 28回 トリミング実習(1人で1頭)ブードルテディベアカット 130分
- 29回 トリミング実習(1人で1頭)ブードルテディベアカット 100分
- 30回 トリミング実習・ライセンス試験(3週に分けて実施)①ブードルテディベアカット 100分
- 31回 トリミング実習・ライセンス試験(3週に分けて実施)②ブードルテディベアカット 100分
- 32回 トリミング実習・ライセンス試験(3週に分けて実施)③ブードルテディベアカット 100分
- 33回 トリミング実習(1人で1頭)ブードルベーシック～顔バリカン・足先バリカン
- 32回 トリミング実習(1人で1頭)ブードルベーシック～デザインカット(マイアミカット)
- 33回 トリミング実習(1人で1頭)ブードルベーシック～デザインカット(マッシュカット)
- 34回 トリミング実習(1人で1頭)ブードルベーシック～デザインカット(おパンツカット)
- 35回 トリミング実習(1人で1頭)ブードルベーシック～デザインカット(ひつじカット)

の

資料を使いトリミングの基礎となるカットラインやバリカンラインを教える。

ブリーダーやモデル犬を使用し実技実習を行う。

グルーミング用品・講義プリント(犬種別カット方法)

の

定期試験(実技)30%、授業態度(意欲態度 30%、言葉遣い 10%、犬の扱い方 30%)70%で総合的に評価す

る。

での

ハサミの動かし方を自宅で練習しながら、イメージトレーニングを行う。

SNSなどでカットの動画を見て復習する。

カットの手順やバリカンのラインなどを、講義資料に書き出し整理する。

との

ペットショップにてトリマー兼、店長として8年勤務。トリミング、生体販売、物品販売から売上管理まで様々な業務経験を活かし指導にあたる。

アニマルケア概論

授業の目的・概要

本授業は、動物看護および飼育現場において必要となるアニマルケアの基礎概念と実践的知識を体系的に理解することを目的とする。動物の行動特性や健康状態の把握方法、日常的な給餌・衛生管理・ハンドリング技術を学び、適切なケアを行うための基礎力を養う。また、動物福祉の視点に基づき、ストレス軽減や環境エンリッチメントの重要性を理解するとともに、種別やライフステージに応じたケアの違いを学習する。さらに、チーム医療や飼い主対応も含めた総合的な動物ケア能力の育成を図る。

科	生命科学科	教員	荻野
コース	トリミングゼミ	教員の実務経験	ペット系企業経営
対象年次	2 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・動物の行動や健康状態を観察し、基本的なアニマルケアを実践できる
- ・給餌・衛生管理・ハンドリングなどの日常ケア技術を身に付ける
- ・動物福祉の観点から適切な飼育環境やストレス軽減方法を説明できる
- ・種やライフステージに応じたケアの違いを理解し、適切に対応できる

授業計画

- 第1週 オリエンテーション（授業概要・動物ケアの意義）
- 第2週 動物ケアの基本概念（ケア・福祉・管理の違い）
- 第3週 動物福祉の基本原則
- 第4週 動物の行動理解①（本能行動・学習行動）
- 第5週 動物の行動理解②（ストレス行動・問題行動）
- 第6週 動物の観察方法
- 第7週 健康状態の基本評価

第 8 週	日常ケアの基礎①（給餌・給水）
第 9 週	日常ケアの基礎②（清掃・環境整備）
第 10 週	ハンドリング技術の基礎
第 11 週	保定方法と安全管理
第 12 週	ストレス管理と環境エンリッチメント
第 13 週	感染症予防と衛生管理
第 14 週	動物の栄養管理の基礎
第 15 週	中間まとめ・実技確認
第 16 週	動物種別ケアの違い
第 17 週	犬のケア実践
第 18 週	猫のケア実践
第 19 週	小動物のケア実践
第 20 週	高齢動物のケア
第 21 週	幼齢動物のケア
第 22 週	リハビリ・補助ケアの基礎
第 23 週	行動修正とトレーニング基礎
第 24 週	飼育環境デザイン①
第 25 週	飼育環境デザイン②（改善）
第 26 週	チームケアと連携（動物看護・飼育員連携）
第 27 週	飼い主対応・インフォームドケア
第 28 週	動物福祉事例研究
第 29 週	総合ケア実習（シミュレーション）
第 30 週	まとめ・最終評価・振り返り

授業の方法
講義形式

教材

必要な資料を授業中に配布する。

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習として、各回のテーマに関連する動物種の特徴やケア方法について教科書や資料を読み、基本用語や手順を整理する。事後学習として、授業で学んだ内容を振り返り、実習記録やノートにまとめることで理解を深め、実践場面を想定して知識の定着を図る。

実務経験と授業科目の関係

現場の実務と経営の双方に携わっており、その経験を通じて得た実践的な動物ケアや顧客対応、サービス品質管理の知識を授業に反映できる点が特徴である。アニマルケアは単なる飼育技術にとどまらず、飼い主満足度や動物福祉、事業運営とも密接に関わるため、現場での判断基準や経営視点を交えた指導により、実務に直結した理解を深めることができる。

基礎健康管理学 II

授業の目的・概要

犬・猫を中心とした動物の緊急時における症状の把握、応急処置、および予防策に関する基礎知識を習得するとともに、新生子ケアからエンジェルケアに至るまで、動物の一生の各ステージに適した専門的ケアのあり方を包括的に理解することを目的とする。

科目名	生命科学科	教員	寺鼻 友美
コース	トリミングゼミ	教員の実務経験	動物病院勤務 7 年・一般企業営業 5 年・ペット用品卸の会社広報(営業)1 年半
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

- ・動物のエマージェンシーの定義を正しく理解し、異変を早期に察知するための観察ポイントと専門知識を習得する。トリマーとして現場で求められる最低限の応急処置、適切な接し方、および事故の予防策を身につける。
- ・トリマーが現場で直面しうる緊急事態への的確な初期対応と予防策を定着させる。あわせて、動物の一生における起点と終点である「新生子ケア」および「高齢ケア」「エンジェルケア（死後処置）」について、専門的な接し方と注意点を習得する。

授業計画

- 1 回 授業について エマージェンシーとは
- 2 回 状態確認の方法① TPR・BW・全身チェックの復習
- 3 回 状態確認の方法② 異常時の確認方法について
- 4 回 応急処置 外傷
- 5 回 応急処置 出血
- 6 回 応急処置 やけど① 概要・状態の確認方法
- 7 回 応急処置 やけど② 応急処置・その後の流れ
- 8 回 応急処置 熱中症① 概要・状態の確認方法
- 9 回 応急処置 熱中症② 応急処置・その後の流れ

- 10 回 応急処置 熱中症について飼い主指導 デモンストレーション
- 11 回 応急処置 ショック① 概要・状態の確認方法
- 12 回 応急処置 ショック② 応急処置・その後の流れ
- 13 回 応急処置 骨折①
- 14 回 応急処置 骨折② 応急処置・その後の流れ
- 15 回 前期まとめ(試験対策)
- 16 回 心肺蘇生について①
- 17 回 心肺蘇生について② 実習
- 18 回 応急処置 眼球摘出
- 19 回 応急処置 けいれん① 概要・状態の確認方法
- 20 回 応急処置 けいれん② 応急処置・その後の流れ
- 21 回 応急処置 窒息
- 22 回 応急処置 誤食/中毒① 概要・状態の確認方法
- 23 回 応急処置 誤食/中毒② 応急処置・その後の流れ
- 24 回 応急処置のまとめ(トリマーとして出来ること)
- 25 回 新生子ケア① 概要・母犬のケア
- 26 回 新生子ケア② 仔犬もケア
- 27 回 老齢動物への自宅でのケア
- 28 回 老齢動物への預かり時のケア
- 29 回 エンジェルケア
- 30 回 後期まとめ(試験対策)

授業の方法

座学、グループワーク

教材

コンパニオンアニマルの新健康管理学

⇒(著者：浅野妃美・浅野隆司 発行所：株式会社エドワードプレス 発行年：2025 年 3 月 27 日)

愛玩動物看護師カリキュラム準書教科書 9 巻

⇒(監修者：岩上大吾 小田民美

発行所：株式会社エドワードプレス 発行年：2025 年 2 月 7 日)

評価の方法

試験 70%、授業への参画 10%、課題への取り組み 20%で総合的に評価する

授業外での学習方法

事前学習として、次回の内容のタイトルを伝えるので該当教科書ページを読んでおく。自身で調べておく。事後学習として、配布プリントで復習を行い不明点は調べるもしくは次回質問をさせる。

実務経験と授業科目の関係

動物看護師としての勤務経験とペット用品卸会社広報の経験から、現場で遭遇するエマージェンシーの一次対応や応急処置を的確に伝えることができる

動物人間関係学

(授業概要)

人と動物の関係について歴史的背景を踏まえながら理解を深め、日本と海外における動物観の違いについて学び、ペット動物や産業動物など、動物の役割ごとの立場を整理する。そして、動物それぞれにおける人との関わり方について考察する。さらに、動物福祉に関する諸問題を取り上げ、その現状を理解するとともに、課題に対して主体的に考える力を養う。

	生命科学科		伊勢 朱里
コース	トリミングゼミ	の	ペットショップスタッフ2年
	2年		1単位

前期

人と動物の関係の歴史の変遷について理解するとともに、ペット動物以外にも産業動物や展示動物など役割ごとの動物の立場について把握することを目標とする。また、それぞれの立場における動物福祉の現状と課題について理解し、多角的な視点から捉える基礎的な考察力を養う。

後期

動物が人に与える影響（心理的・社会的効果など）について理解を深めるとともに、動物福祉に関する問題の現状を把握することを目標とする。さらに、それらの課題に対して自ら考え、適切な関係性や解決の方向性について主体的に考察できる応用的な思考力の育成を図る。

- 1回 現代のペット事情を知る
- 2回 現代のペット問題を考えよう
- 3回 ヒトと動物の歴史(日本：はじまり)
- 4回 ヒトと動物の歴史(日本：中期)
- 5回 ヒトと動物の歴史(日本：戦後)
- 6回 ヒトと動物の歴史(世界：はじまり)
- 7回 ヒトと動物の歴史(世界：中期)
- 8回 ヒトと動物の歴史(世界：戦後)
- 9回 動物福祉・動物愛護
- 10回 法律上での動物
- 11回 産業動物の福祉と課題

- 12 回 実験動物の福祉と課題
- 13 回 展示動物の福祉と課題
- 14 回 野生動物の福祉と課題
- 15 回 動物が人に及ぼす影響
- 16 回 子どもと動物
- 17 回 高齢者と動物
- 18 回 罪を犯した人と動物
- 19 回 殺処分について考える
- 20 回 殺処分についての現状
- 21 回 動物虐待について考える
- 22 回 動物虐待についての現状
- 23 回 多頭飼育崩壊について考える
- 24 回 多頭飼育崩壊についての現状
- 25 回 ペットロスについて考える
- 26 回 ペットロスについての現状
- 27 回 ペットの安楽死について考える
- 28 回 ペットの安楽死についての現状
- 29 回 ペットの社会進出について考える
- 30 回 ペットの社会進出の現状

の

講義・グループディスカッション

授業で使用する教材については、必要に応じて授業中に適宜配布していく。

の

試験 80%、課題への取り組み 20%で総合的に評価する。

での

授業内容の復習を行い、人と動物の関係や動物福祉に関するテーマについて自らの考えを整理すること。
また、関連するニュースや資料、文献等を活用し、多角的な視点から理解を深める。

との

担当教員は総合ペットショップにおける実務経験を有しており、動物と人が関わる現場での経験を踏まえ、人と動物の関係性や動物福祉に関する多様な価値観について考察する視点を提示する。これにより、学生が主体的に考える力の育成を図る。

皮膚学

授業の目的・概要

プロのトリマーとして現場に立ち、飼い主から「この人に任せれば安心だ」と指名される健康管理のスペシャリストを目指す。

単に美しく仕上げるだけでなく、施術の全行程を通じて、皮膚の炎症、目や耳の異常、足腰や肛門周囲の違和感など、動物が発する微細なサインを的確に察知する「プロの観察眼」を習得する。さらに、発見した事実を飼い主へ分かりやすく、かつ論理的に説明し、動物病院への受診勧奨を含めた適切なアドバイスができるコミュニケーション能力を身につける。

科	生命科学科	教員	市川 華香
コース	トリミングゼミ	教員の実務経験	愛玩動物看護師 7 年
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

- ・皮膚・被毛の異常検知と分類：シャンプーやブローの工程において、皮膚の赤み、湿疹、フケ、脱毛などの異常を発見し、それらが「炎症」「乾燥」「寄生虫の疑い」などのいずれに該当するかを適切に選択・分類できる。
- ・5 つの重点部位におけるチェック項目の記述：目（充血・目脂）、耳（汚れ・異臭）、足裏（指間の腫れ）、肛門周囲（囊の貯留）、口腔（歯石・歯肉炎）の 5 箇所について、健康時との違いをカルテに正確に記述できる。
- ・飼い主への「受診勧奨」ロールプレイングの実践：発見した異常を飼い主に報告する際、不安を与えない言葉選びに配慮しながら、動物病院への受診を促す具体的な根拠を説明できる。
- ・保定技術とストレス軽減の操作：痛みを伴う部位（炎症や怪我）がある個体に対し、二次被害を防ぐための適切な保定を操作し、動物の負担を最小限に抑えるよう配慮した施術ができる。
- ・プロの視点によるセルフチェックと議論 自身の施術後に「見落としがなかったか」を項目別に比較・照合し、他の学生や講師と「早期発見のために必要な観察ポイント」について自身の見解を議論

できる。

授業計画

【前期】

- 第1回 トリマーに求められる観察眼と役割
- 第2回 ワクチンの基礎知識（コアワクチン・ノンコアワクチン）
- 第3回 フィラリア・ノミダニ予防の重要性
- 第4回 バイタルサインの測定（体温、心拍、呼吸数、粘膜の色）
- 第5回 トリミングサロンの清掃・消毒の基礎知識
- 第6回 サロンにおける衛生管理の実践（道具の消毒など）
- 第7回 ズーノーシス（人獣共通感染症）の基礎知識と予防策
- 第8回 皮膚の構造と機能（健康な肌とは）
- 第9回 皮膚の病気①（細菌、真菌、寄生虫によるトラブル）
- 第10回 皮膚の病気②（アレルギー、内分泌疾患と皮膚の関係）
- 第11回 シャンプーの基礎知識（界面活性剤と皮膚への影響）
- 第12回 薬用シャンプーの選択と使い分け
- 第13回 耳の構造（健康な耳の状態）
- 第14回 耳の病気（外耳炎、耳血腫、異変のサイン）
- 第15回 排泄物の観察（尿・便からわかる健康状態）

【後期】

- 第16回 目の構造（視覚の仕組み）
- 第17回 目の病気（結膜炎、白内障、チェリーアイなど）
- 第18回 鼻と口の構造（歯科構造の基礎）
- 第19回 口腔内の異常（歯周病、口内炎、腫瘍の発見）
- 第20回 お腹まわりの構造と異常（しこり、乳腺腫瘍のチェック）

- 第 2 1 回 お尻まわりの構造（肛門囊の仕組み）
- 第 2 2 回 お尻まわりの異常（肛門囊炎、ヘルニア、寄生虫の目視）
- 第 2 3 回 生殖器の構造と異常（去勢・避妊の知識含む）
- 第 2 4 回 足先・爪の構造（血管の位置と爪切りのリスク）
- 第 2 5 回 足先の異常（指間の炎症、指の腫瘍）
- 第 2 6 回 膝・腰まわりの構造（骨格の基礎）
- 第 2 7 回 関節・骨のトラブル（パテラ、椎間板ヘルニア、歩様観察）
- 第 2 8 回 全身チェックの実践演習（健康チェックシートの作成）
- 第 2 9 回 インフォームド・コンセント：異変を見つけた際の伝え方（ロールプレイング）
- 第 3 0 回 総括試験：トリマーとしての健康管理・報告業務の確認

授業の方法

- ・映像資料を用いた症例解析： プロジェクターで投影される高精細な症例写真や動画を用い、健康な状態と異常がある状態を比較する。各部位（皮膚・目・耳・足・肛門周りなど）の異変を特定し、その特徴を客観的に記述する練習を繰り返す。
- ・コミュニケーション・シミュレーション： モニター上の症例を「担当した動物」と見立て、飼い主に異常を伝える際の言葉選びについて議論する。飼い主の心理に配慮した、プロフェッショナルな報告手順を講義内で体系的に学ぶ。

教材

- ・小沼 守 著『めざせ早期発見！わかる犬の病気』（株式会社 EDUWARD Press、2020 年発行）
- ・配布資料：授業で使用する症例写真やチェック項目、疾患に関する専門用語集などのプリント教材については、必要に応じて授業中に適宜配布する。また、プロジェクターを用いた視覚学習を主とし、現場の臨床現場に即した最新の資料を適宜参照する。

評価の方法

成績評価は 100 点満点で行う。

内訳：成績点、前期/後期試験 80%、平常点 20%（授業態度 10%、課題 10%）で総合的に評価する。

評価方法の詳細については、初回の授業で学生に周知し、公平性を期す。

授業外での学習方法

事前学習：プリント記載のキーワードを事前に調べ、ノートにまとめる。

事後学習：講義の疑問点を抽出し、調査した結果をノートに整理する。

実務経験と授業科目の関係

動物病院にて愛玩動物看護師として 7 年間勤務。診察補助、検査、外科処置、入院管理等を通じ、多様な疾患の治療プロセスと飼い主への説明を最前線で担当した。

臨床経験を活かし、トリマーの視点から「病気の早期発見」を確実なものにする。具体的には、疾患の兆候や予兆を現場の視点から解説するほか、治療の現場がトリマーに求める詳細な観察項目や情報共有のあり方を指導する。また、飼い主が安心できる適切な受診勧奨の手順など、動物病院とトリマーの連携をスムーズにするための実践的なコミュニケーションスキルを講義する。